学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.21

発行日 ● 平成25年（2013）2月12日

もくじ

ごあいさつ……………………………………………………………1
次回展覧会と史料閲覧についてのお知らせ………………………1
第 69 回　学習院大学史料館講座
「教育の力　時代を超えて今に生きるもの
　—戦前・戦中・戦後　女子学習院から学習院女子部へ—」
……………………………………………………………2・3・4
新刊のご案内 …………………………………………………………4

次回展覧会と史料閲覧についてのお知らせ

史料館では、2012年冬から2013年夏にかけ、収蔵庫整備を実施中です。そのため、次回の展覧会　東洋文庫・永青文庫との３館連携展示「東洋学の歩いた道（仮）」は、９月下旬からの開催となります。詳細は次号でお知らせ致します。
また、史料（マイクロ史料含む）については、収蔵庫からの史料出納が不可能になるため、３月30日（土）まで閲覧を停止させていただいております。

ごあいさつ

昨年11月24日、特別展「近代日本の学びの風景––学校文化の源流––」を開催中の史料館では、学習院女子高等科の昭和26年卒業生有志を講師にお迎えし、戦前・戦中・戦後の学習院の女子教育について話していただきました（第69回史料館講座）。本号はその内容をまとめたものです。

学習院、それも戦前の学習院の女子教育といえば、深窓の令嬢たちを育むものだったわけですが、意外に質実剛健であったことを知りました。それは講師の方々が入学された昭和14年（1939）の日本がすでに戦争に向かっていたことと関係するかもしれませんが、一方で、他の中学校では英語を教えなくなった戦争中も、女子学習院では従来どおり英語の授業があったというのは、時流に左右されない教育方針を感じさせます。戦争と言えば、疎開中の暮らしについてのお話も印象的でした。空腹を抱えた少女たちが食べたいものを描いたかわいらしい絵も披露され、よく保存されたと感銘を受けました。

女子学習院の教育は、生徒たちがどんな場面でもたじろがず、正面から物事に立ち向かう逞しさ、しなやかさ、そして明るさを身につけることを目指すものでした。その方針は、今でも学習院女子中等科・高等科に脈々と受け継がれているように思います。学習院大学には女子高等科から進学してくる人も少なくありません。私は哲学科の教員として十数年にわたりさまざまな学生に接して来ましたが、女子高等科出身者はたいへん元気で積極的な人達、とても頼もしい人達であるという印象を持っております。そこで、女子高等科の教育や環境に何か特別なものがあるのではないかと常々考えておりました。今回のお話で、確かにそうだったと確信した次第です。

当日の講師の皆様と、準備段階でご尽力くださった皆様に心から御礼申し上げます。

（館長　高橋裕子）